

小牧市の分析まとめと対策について【中学校】

令和5年10月

小牧市教育委員会

教育長 中川 宣芳

本年度の分析にあたって

4月18日に行われた全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。小牧市の結果について、教科によるばらつきはありますが、県平均とほぼ同等の結果となりました。

この調査の目的は、子どもたちの学力の傾向を捉えて、指導の充実・改善を図ることです。子どもたちの学力の傾向を正しく分析し、今後の授業改善に生かしていくことが大切だと考えます。

小牧市においても、子どもたちの学びの現状をしっかりと把握し、課題が残った部分を補いつつ、得意な部分をさらに伸ばしていけるような教育活動の実現につながるよう、この調査結果を生かしていきたいと考えています。

今回は令和元（平成31）年度から4年ぶりに英語の調査が行われました。その結果と指導改善のポイントについてもお知らせします。

各教科の結果から

国語

平均正答数は、全国平均、県平均とほぼ同等の結果でした。

「話すこと・聞くこと」の領域は、全国平均、県平均とほぼ同等の結果でした。インタビューの場面で、目的や場面に応じて質問する内容を検討する問題が高い正答率でした。

「書くこと」の領域は、読み手の立場に立って叙述の仕方などを確かめながら文章を整える問題の正答率が低く、課題が見られました。

「読むこと」の領域は、文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考える問題の正答率が低く、課題が見られました。

「言語文化」や「言葉の特徴や使い方」の領域は、事象や行為、心情を表す語句を理解することについて高い正答率となりました。その一方で、文脈に即して漢字を正しく書くことについて課題が見られました。

無解答率は全国平均よりやや低い結果でした。問題に粘り強く取り組む姿勢が身に付いています。

数学

平均正答数は、県平均より低く、全国平均とほぼ同等の結果でした。

「数と式」の領域は、問題場面における考察の対象を明確に捉える問題が高い正答率でした。その一方で、結論が成り立つための前提を問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見いだして説明する問題に課題が見られました。

「図形」の領域は、空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることの意味をみる問題の正答率が低く、課題が見られました。

「関数」の領域は、反比例の意味を理解して正しい記述を選ぶ問題の正答率が低く、課題が見られました。

「データの活用」の領域は、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られました。

前提条件や理由を説明する記述式の問題では、無解答率が高くなる傾向が見られました。

英語

平均正答数は、全国平均よりやや高く、県平均よりやや低い結果でした。

「聞くこと」の領域は、情報を正確に聞き取る問題が高い正答率でした。その一方で、日常的话题について、自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を聞き取る問題に課題が見られました。

「読むこと」の領域は、日常的话题について、自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を読み取る問題の正答率が低く、課題が見られました。

「書くこと」の領域は、日常的话题について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く問題の正答率が低く、課題が見られました。

「話すこと」の領域は、未来表現を理解してやり取りの場面で活用する問題で全国・県平均より正答率が高い一方、社会的な話題に関して聞いたことについて、考えと理由を伝える問題が低く、課題が見られました。

読んだことや事実、自分の考えを書く記述式の問題では、無解答率が高くなる傾向が見られました。

今後取り組む指導改善のポイント

国語

- 「書くこと」の指導を充実させます。読む相手を意識して表記や語句の用法、叙述の仕方を自分で推敲したり、その結果、書き換えた理由や意図を説明したりする活動を通して、自分の考えが伝わる文章を書く力を育成します。
- 「読むこと」について、文章の構造を捉えて要旨を把握したり、引用や事例の示し方、文末表現や文体などの表現の工夫とその効果について考えたりしながら読むことができるよう、指導を工夫していきます。

英語

- 「聞くこと」「読むこと」について、日常的话题を題材に、自分の置かれた状況から何が必要な情報かを判断したり、関連する語句や表現に着目したりして、聞いたり読んだりする力が付くよう、指導を工夫していきます。
- 「書くこと」について、伝えたい内容が読み手に正確に伝わるよう、正しい語や文法事項等を意識したり、目的に応じて文章構成を判断したりしながらまとまった文章を書く活動を充実させていきます。
- 「話すこと」について、相手への聞き返しや質問の付け加えをして対話を継続・発展させたり、既習の表現などを活用しながら自分の考えや気持ちを理由とともに話して伝えたりすることができるよう、指導を工夫していきます。

数学

- 「図形」について、観察や操作などの活動を通して実感を伴いながら理解できるようにしたり、「データの活用」について、データの傾向を捉えて判断し、その理由を的確に表現したりする指導に力を入れていきます。
- 日常生活や社会の事象を題材とした問題を取り上げ、必要な情報を適切に読み取り、問題解決の見通しや方法について伝え合う中で、論理的に考察し数学的に伝える力を身に付ける指導をしていきます。

全般

- 学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」を具現化するため、生徒同士の共感的な人間関係を土台とし、生徒が主体となり仲間と協働的に学ぶ「学び合う学び」の授業をより一層推進していきます。
- 考えを深めたり広げたりするために、自分の考えを工夫して伝えたり、相手の考えを聞く機会を大切にするとともに、一人一人の学びの様子を丁寧に見取り、個々のつまずきに寄り添うような指導を心がけます。
- 一人一台タブレット端末を効果的に活用し、より多くの考えや情報に触れる中で考えを広げたり深めたりするとともに、個々の学習状況に応じたきめ細かな指導・支援を進めていきます。

質問紙調査から

毎日同じくらいの時刻に起きているか 肯定的88.2%

朝食を毎日食べているか 肯定的89.2%

全国平均と概ね同じ結果でした。家庭での基本的な生活習慣が身に付いていることが分かります。

いじめは、どんな理由があってもいけないと思うか

肯定的94.8%

人が困っているときは、進んで助けているか

肯定的89.5%

全国平均と同等の高い値を示しています。規範意識や仲間を思いやる心、共感性を育むとともに、教師が生徒一人一人の様子を見守り、いじめの防止に努めます。

自分にはよいところがあると思うか 肯定的79.5%

将来の夢や目標をもっているか 肯定的64.2%

全国平均と概ね同じ結果でした。自分のよさや個性を肯定的に理解し、自分の役割や将来の生き方を考えられるよう、キャリア教育をより充実させていきます。

住んでいる地域の行事に参加しているか 肯定的36.4%

地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思うか

肯定的59.2%

小学校6年時に比べ、参加の機会は減少する一方で、よりよくしたい思いは増加しています。さまざまな機会を通して、地域の一員としての自覚と参画する態度を育てていきます。

国語・数学・英語の勉強は大切だと思うか

肯定的89.4%(国)・81.2%(数)・85.9%(英)

国語・数学・英語の授業で学習したことは将来役に立つと思うか 肯定的83.9%(国)・68.8%(数)・84.0%(英)

3つの教科の中では、数学での学習内容と実生活とが結びつきにくいことがうかがえます。指導改善のポイントにも示したように、日常生活や社会の事象を数理的に捉えて問題を見いだしたり、論理的、統一的・発展的に考えて解決したりする数学的活動を大切にします。

1・2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか 肯定的78.9%

話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか 肯定的76.3%

肯定的な回答は全国平均とほぼ同等でした。授業において自ら粘り強く課題解決に取り組み、グループやクラス全体で考えを共有する中で多くのことを学んでいる様子が分かります。

1、2年生までに受けた授業で、ICT機器をどの程度使ったか。 ほぼ毎日70.4% 週3回以上21.9%

家庭学習の課題として、ICT機器をどの程度使って英語の音声を聞いたり話す練習をしたりしたか

ほぼ毎日2.7% 週3回以上5.6%

ほぼ毎日の使用が、全国や県平均と比べて2倍以上の高い値であり、授業において日常的に使用され、考えの共有や学びの蓄積に不可欠な道具になっています。さらにICT機器の特性を生かし、個の学びや目的に合わせた効果的な活用を授業はもとより学校活動全体や家庭学習にも広がっていきます。

学習態度・生活態度の状況